

伝えたい内容を整理し、既習表現を用いて

自分の考えと理由を相手に伝えられる生徒の育成

—スピーキング活動と生徒の気づきを生む活動を取り入れた 英語科の授業実践を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（英語）

横井 佑宇

本研究では、聞き手が理解しやすいように話す内容を整理して、自分の考えと理由を相手に伝えられる生徒の育成を目指し、スモールトークを行ったり、絵を見ながら教科書内容について話す再話活動を行ったりした。また、第二言語習得において気づきが重要な役割を果たすという理由から、スモールトークや再話活動後には、ルーブリック評価表を用いた振り返りシートに取り組みせたり、生徒がスモールトークしている動画をクラス全体で視聴し、どのような会話をするとよいか話し合うなど着目点を共有したりした。これらの活動を行うことで次第に、一部の生徒において相手が理解しやすいように単語単位ではなく、自分の考えと理由、具体例などを盛り込んだ文章で会話ができるようになったり、日本語をなるべく使用せず、英語を用いて流暢に会話できる生徒が増加した。そして、本実践からは自分の考えと理由を相手に分かりやすく伝える力を育てるためには、スモールトークだけでなくスモールトーク後に振り返りシートを活用したり、クラス全体で着目点を共有したりすることが必要であると分かった。